



【今週の暗唱聖句】

あなたがたの神、主の命令、主が命じられたさとしとおきてを忠実に守らなければならない。主が正しい、また良いと見られることをしなさい。そうすれば、あなたはしあわせにな(る)。申命記6:17-18

●幸せになりたいなら、先ず主の命令、論し、掟をよく学び、覚え、それを守る必要がある。しかしただ言われたからするのでなく、主が何を喜ばれるか、自分から進んで考え、主体的に行動することが求められているのです。この主体性こそ、神を愛することなのです。

【教会について(3)】

「キリストのからだ・

地の塩、世の光」

前回、教会が神の家族とされていることを学びました。神は父上、イエスは兄上、聖霊は慰め主、助け主。父なる神とイエスが今は天におられるのに対して、聖霊は私たちと共におられ、家庭教師のごとく歩んでくださる方なのです。



●教会が「キリストのからだ」であるという教えは、ローマ12章、Iコリント12章、エペソ1、4、5章のそれぞれの箇所パウロが展開しています。さらにこのイメージを通し、キリストが「頭脳」、クリスチャンが「からだの部分」つまり、目であったり、耳、鼻、口、内蔵、手、足等々であり、それぞれが調和を保ちながら頭が命じることを行う存在であることを説明しています。またこのイメージを通し、信者同士が相互依存の関係にあることを思い起させ、互いに比較に走ったり、優劣を競ったりすることを戒め、協調して生きるよう、論じています。

●上の絵で弟子の足を洗っている

イエスの手足、からだそのものが教会なのだ、ということが理解できるなら教会の役割が見えてきます。教会はキリストが地上で始めたことを引き継ぎ、キリストの手足として、世の終わりまで「地の塩、世の光」としての働きを続ける使命が与えられています。

●地の塩とは、世の罪を食止める防腐剤の役割を果たし、人間社会の様々な苦しみの問題に取り組み、社会の改善のための働きをすることです。しかし人間の根本的な必要は魂の救いです。ですからもう一つの働きが「世の光」、つまりキリストにある罪の赦しと救い、永遠の命のメッセージを宣教することを意味します。■

【今週の英語】 Acronyms 頭字語 ...とは幾つかの言葉の頭文字を並べたり、短文のそれぞれの単語の頭文字を並べたりして内容を覚えやすくする仕組みです。クリスチャン生活で役立つ物を選んでみました。是非覚えてみてください。

A-C-T-S!= Adoration, Confession (Contrition), Thanks, Supplication
礼拝、告白／悔改め、感謝、とりなし ※これらは祈りの四つの要素です。

B-I-B-L-E!= Basic Instructions Before Leaving Earth
地球を去る前の基本的な指示書 ※人間の死の問題の解決は聖書にある！

B-U-S-Y!= Being Under Satan's Yoke サタンのくびきの元にある
※忙しさはまさに人を神から引き離すためにサタンが仕掛ける罠です！

D-O-G!= Depend On God 神に信頼せよ！ ※犬の忠誠から学べます。

E-G-R!= Extra Grace Required 恵みが余分に必要 ※身近な人が最近亡くなった人、心の傷が深い人などには特別な配慮が必要という時に使います。

J-O-Y!= Jesus first, Others second, You last 第一にイエス、第二に他者、最後にあなた ※優先順位がこのような人はいつも喜びに溢れるでしょう。

W-W-J-D!= What Would Jesus Do? イエス様ならどうする？ ※御馴染。

I-H-S!= Iesus Hominum Salvator “Jesus, Savior of men” 失礼！これは英語ではなくラテン語です。意味は「イエスは人の救い主。」 次回をお楽しみに◆

【先週のメッセージより】 ★テモテから学ぶ・・・

聖書に親しむ 使徒16：1－5、第二テモテ1章、3：16

●テモテは幼い頃より、母ユニケ、祖母ロイスから旧約聖書の指導を受け、地元ルステラのユダヤ人コミュニティーにおいて用いられていた青年でした。使徒パウロがバルナバと共に第一次宣教旅行でルステラに寄った際、三人ともナザレのイエスを待ち望んでいた救い主、キリストとして受け入れ、クリスチャンになりました。新しく始まったイエスをメシヤとして信じるクリスチャンたちのグループでもテモテは用いられる青年となっていました。パウロは第二次宣教旅行でルステラに寄った際、この青年に出会い、宣教の働きにリクルートしました。テモテの働き人としての歩みはこのように始まり、エペソ教会の監督として殉教をもって生涯を閉じるまで、主に仕えていったのです。



●聖書を学ぶ目的は・・・神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられたものとなるためです。

●聖書はどんなことに役立つでしょうか？・・・教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

●聖書に親しむためには・・・熱心さを保ち、聖霊に信頼しましょう